

1学期最後の「こがくらだより」です。今回は、スマホ等での見え方を考え書式を変えてみました。どちらが読みやすいか分かりませんが、お読みいただければ幸いです。



一学期終了 夏休み

本日をもって、72日（1年生は70日）間の一学期が終わりました。明日からはいよいよ43日間の夏休みです。

私たち教職員は、子供たち一人一人の違う頑張りや伸びを認め、励まし続けてきました。そして、それを子供たち自身が、しっかりと認識してくれることを信じて伝えてきました。一学期間に備えた力を糧に充実した夏休みを過ごしてほしいと願うばかりです。

保護者の皆様を中心に地域の皆様、4月からの4か月間、大変お世話になりました。お陰様で、4月の始業式・入学式から本日の終業式まで、子供たちが大過なく過ごせたことをうれしく思い、皆様方に感謝の気持ちでいっぱいです。事件事故の発生もなくほっとしています。ただ、個別には、心配になること（例えば、骨折や心の不調など）がありました。夏休み中も心配は尽きませんが、命を大切に、9月の始業式に元気に登校してほしいと願っています。

今後も引き続き、長い夏休み、そして2学期からの子供たちを見守ってください。

目標を持ってチャレンジ

始業式のときに「目標や夢をもってほしい」「常にチャレンジする」ということと、今年のテーマを「考動」として「考えて動く」ようにしてほしいという願いを伝えていました。人に言われて動くのではなく、自分で考えて行うというものです。先生から言われたからやる、友達がやっているからやる、ということではなく、今は、どうすればよいか、その時その時に考えて、考（行）動できる子供たちに育ててほしいとの思いからです。



一学期を振り返ってみると、御家庭の支えもあり、個人の目標や学級の目標に対して、どの子も全力で向き合っていて過ごし、少しずつですが、挨拶や活動の準備など自分で考えることが増えてきているように感じます。

夏休みも、「考動」を継続し、自信をもって様々なことに挑戦してほしいと思います。自分で計画を立て、充実した夏休みにしてほしいと願っています。

環境の大切さ

前回も同じタイトルで書きました。さて、今回は・・・
ちょっと恐ろしい実験結果の話を書きます。



ノミは、体長の150倍もの跳躍力があると言われています。そのノミを小さな瓶に入れて蓋をします。ノミは飛び跳ねると蓋にぶつかるため、それを繰り返しているうちに蓋を取って、蓋がなくなっても、瓶の高さ以上は跳び上がれなくなります。

いくら跳び上がれる能力があっても、脳の思い込みにより跳び上がれなくなるのです。環境が与える影響のすさまじさを示す恐ろしい実験だと思いました。もっと恐ろしいのはここからです。

この跳べなくなったノミを、他の普通に跳んでいるノミの中に戻すと、また元のように跳べるノミになるのです。

この話を知った時「心の底から恐ろしい話」と思いました。環境が子供たちの可能性を延ばすこともつぶすこともできるということに、ものすごく大きな責任を感じたのです。

夏休みに、子供たちが自らの可能性によって、新しい力を発見することを願うばかりです。

「1万時間の法則」 ～ 継続こそ力なり ～

私が学級担任をしているころ、(特に)学期の終わりや年度末に、以前読んだ『天才! 成功する人々の法則』の中にあつた「1万時間の法則」という話を子供たちにしてきました。

この本の作者イギリスのマルコム・グラッドウェル氏は、スポーツや音楽・IT産業などで成功した人、数千人を調べ上げ、成功するために必要なのは才能なのか努力なのかということ科学的に調査しました。それらの人に共通しているのはたった一つ、1万時間以上練習しているということでした。グラッドウェル氏の結論は、人の才能に大差はなく、要はそれだけ時間と量をかけて練習できるかということです。「1万時間の法則」というのは、だれでも「何かを目指して1万時間を積み重ねることができたら、その道の一流のプロフェッショナルになれる」というものです。そこで、子供たちに将来なりたいものがあつたら、どれぐらいその勉強や練習等をすればいいと思うかを聞いてみます。すると「いっぱい練習すればいい」とか「上手や下手もあるので、人によって違うかも」といったつぶやきが聞こえてきます。その後、私から「1万時間の法則」について話をした上で「1万時間って何年ぐらいだろう?」という問題を投げかけ、子供たちと一緒に計算を試みることにしました。最初は、単純に1日24時間として計算すると $1万 \div (365日 \times 24時間)$ で約1年2か月になることを確認し、次に、寝ている時間や学校で勉強している時間などを差し引いて現実的に毎日自分のやりたいことを続けられる時間を3時間ぐらいと想定し、計算してみます。結果は、 $1万 \div (365日 \times 3時間)$ で約10年になります。つまり、1万時間の法則が正しいとすれば、1日3時間、毎日自分の夢に向かって勉強したり、そのことを練習したりすることを続けられれば、10年でその道のプロになれるということをお子たちと確認してこの話を終わりにしていました。

この話の後、子供たちの中には、具体的な数値が分かつたことで「今日からやってみようかな」といった前向きなつぶやきをする子も多くみられました。また、この本には「人はある行動をしてから60秒以内にほめられると、再びその行動を繰り返す確率が高まる」ということも書いてあり、子供の続ける力を育むコツは、この「すかさず望ましい行動をほめること」にあるようです。

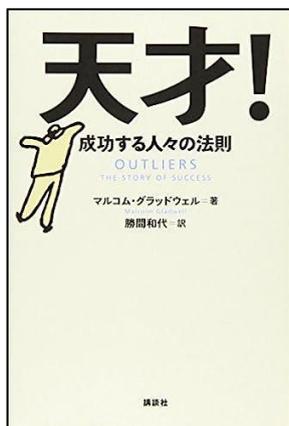
今週末から43日間の夏休みになります。長い夏休みを有効に使って、御家庭でもお子さんと一緒に毎日続けられそうなことを決めて、1万時間の法則の第一歩を踏み出してみようでしょうか。そして、望ましい行動をほめることを通して、お子さんが一つのことを続ける気持ちを応援してあげてください。続ける力を身に付けることが子供たちの将来の可能性を広げていくことの一助になるとおもいます。

※ 民放のテレビ番組「〇〇でっかTV」ではありませんが、ここに書いた見解は、当然ながら、あくまでも一説であり、「必ず」ということでも、その真偽を確定するものでもありません。

様々な研究者の中には、個人の努力のほか、「持って生まれた才能や環境も成功の可否に影響している」という方もいます。

従って、「へえ〜」「ふ〜ん」という感じでとらえていただければと思います。

<参考文献>



講談社
「天才! 成功する人々の法則」
マルコム・グラッドウェル著 (2009)
勝間 和代訳

